

島根

すつもつ フィードに もよひづページ

隠岐魅力 UP

なつながりをものにするのは難しく、そのためにはおもてなしパワーが必須だからです。

本土からの物理的距離による流通ハンディを、C.A.S.凍結技術導入や隠岐牛ブ

なつながりをものにするの

は、子どもから大人までさまざまな交流を通じて行われています。

（時には海外）からの一タ

ーンや地元民のUターンが

増え、人材が多様化するこ

と。移住者と地元民が相互

に刺激を与え合い、若者も

高齢者も世代を超えて学び

うること。その結果、新た

な発想やビジネスが生まれ

ること。海士ファンが「コ

ミで増え、観光から定住へ

つながること」等々。

この交流の元はおもてな

しの心です。海士町に人が

集まる理由は、単に町が住

宅や制度を整備したからで

はありません。一人ひとり

に向かう真摯な対応、ス

トレートで温かいおもてな

しこそが、交流の持続と拡

張る姿勢と言えそうです。

（海士町役場総務課情報政

策係 岡本真里栄）

世界ジオパーク認定

9日、隠岐ジオパークはついに世界ジオパークネットワークの一員になりました。翌日に隠岐4町村では祝賀行事が行われ、私が住む海士町のセレモニーで山内道雄町長は、「今が出来たときだ。この稀少な『宝』をいかに広く発信し、後世に引き継ぎ守っていかか。海士らしいおもてなしの心を基本として、その中でジオパークをいかしていきたいた。おもてなしの心をこれからも大切にしよう」と呼びかけました。タリティー）って何でしょ

うか。7月、ホスピタリティーの伝道師として有名な、ザ・リッツ・カールトン・ホテル前日本支社長で現在は人とホスピタリティ研究所所長の高野登さんが、シンポジウム「島の観光会議」の講演講師として海士町を訪れました。高野

大切な「おもてなしの心」



世界ジオパーク認定の祝賀セレモニー
=海士町で10日、筆者撮影

らされるのは島全体が元気だからであり、その元気は交換策で克服し、あわや財政破綻というピンチを逆にチャンスに変えて、徹底した行政改革で島の自立。再

ばこういうことです。全国

ランド化など独自の産業振

興策で克服し、あわや財政破綻とい

うです。また教育面でも交流は

キーワード。「まちづくり

は人づくり」とは町長の口

癖で、人づくりつまり島

の未来を支えるやる気と能

力と愛郷心ある人材の育成

は、子どもから大人までさ

まざまな交流を通じて行わ

れています。

交流はまさに、離島・海

士町の生命線。とすれば、

おもてなしパワーこそまち

づくりの土台だということ

です。隠岐ジオパーク世界

認定にあたり、町長がセレ

モニーで語った「おもてな

しの心を大切に」とは、観

光振興のことだけではな

く、まちづくり全体を通じ

る姿勢と言えそうです。

（海士町役場総務課情報政

策係 岡本真里栄）